

# 緑の風 FAX版



NO. 4 2019年 7月11日 JR東労組

J R 東労組ホームページ

## 映画「新聞記者」

### をみんなで見に行こう！

6月27日 東京新聞

#### メディア×権力

#### 深い闇に迫る2人



映画「新聞記者」より。シム・ウンギョン◎と松坂桃李



藤井道人監督

本紙社会部の望月衣塑子記者の著書「新聞記者」(角川新書)を原案にした。藤井監督は「ドキュメンタリータッチでなく、フィクションで隠れた真実を描きたい」と考えた」と話す。著書で扱った事件や社会問題、メディアの動向について想起させる表現はあるが、当初台本

#### 映画「新聞記者」 あす公開

公文書改ざん、政権への忖度。そんなタイムリーなテーマを題材に、権力とメディアの攻防を描いた映画「新聞記者」が二十八日公開される。臆することなく不正を暴こうとする記者と、政権維持に苦悩する若手エリート官僚を軸にしたサスペンスタッチのフィクション。藤井道人監督(シム)は「連つ立場の二人がともに人としての生き方を問う姿に感じるものがあるはず」と力を込める。(竹島勇)

#### 葛藤抱える姿 人としての生き方問う

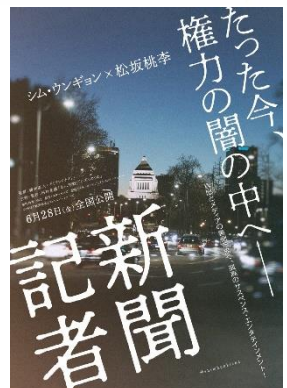
藤井監督は「二人それぞれ、葛藤を抱えた演技が素晴らしい」とたたえた。エリカの職場のシーンは本紙編集局で撮影した。内調の取材はかなわなかったが「暗く色を感じさせないオフィスで職員が無言で働くことで組織の異常性を見せた」と映像表現の工夫を明かした。「社会や組織に無関心な若者が考えるきっかけになれば」と願う。

#### 政権批判はらむ原案 製作二社 依頼断る

河村光鷹プロデューサー(シム)は「安倍政権では、森友・加計問題をはじめさまざまな問題が続いた。テレビや一部の新聞の政権への批判性の無さを感じていた時、立ち向かっている望月さんの本を読みたい」と意図を説明する。映画では具体的な政権批判の描写

はないが「この作品に参加したらテレビの仕事がなくなる」と製作会社二社が依頼を断ったと明かす。エリカにウンギョンを起用。「日本人女優では拓海との恋愛を観客が期待してしまう」と思い、元々(起用を)考へなかった。彼女の演技は期待通り」と満足げに語った。

東京新聞の記者・望月衣塑子氏のベストセラー「新聞記者」(2017年/角川新書)を“原案”に、政権がひた隠そうとする権力中枢の闇に迫ろうとする女性記者と、理想に燃え公務員の道を選んだある若手エリート官僚との対峙・葛藤を描いています。国家権力と報道メディアの関係性を描いた、サスペンス・エンターテインメント映画です。



### 映画を通じて 社会現実を掴み取ろう！

